

令和3年3月

第21回健康づくり推進協議会資料 - 4

ジェネリック医薬品使用促進の取組み

留意点

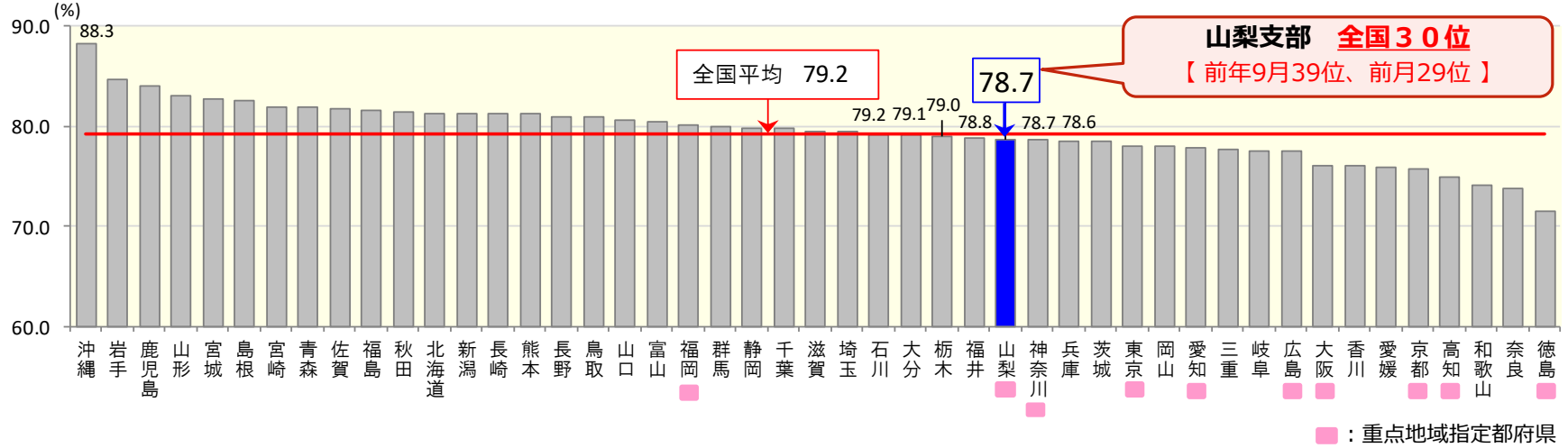
- ・協会けんぽ（一般分）の医科、DPC、歯科、調剤レセプトについて集計したものである。（ただし、電子レセプトに限る。）
なお、DPCレセプトについては、直接の診療報酬請求の対象としていないコーディングデータを集計対象としている。
- ・社会保険診療報酬支払基金から請求のあったレセプト（再審査分を除く）を集計対象としている。
- ・診療種別
 - 医科入院：病院、診療所における入院（DPC含む）
 - 医科外来：病院、診療所の外来における院内処方
 - 歯科：歯科の外来における院内処方
 - 調剤：処方せんに基づく保険薬局における調剤
- ・医薬品の区分は、厚生労働省「各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報」に基づいて設定している。

			区分	
医薬品	先発医薬品	ジェネリック医薬品がない先発医薬品	1	
		ジェネリック医薬品がある先発医薬品	薬価 > ジェネリック医薬品	2
			薬価 ≤ ジェネリック医薬品	5
	ジェネリック医薬品	薬価 < 先発医薬品	3	
		薬価 ≥ 先発医薬品	4	
	上記以外		0	

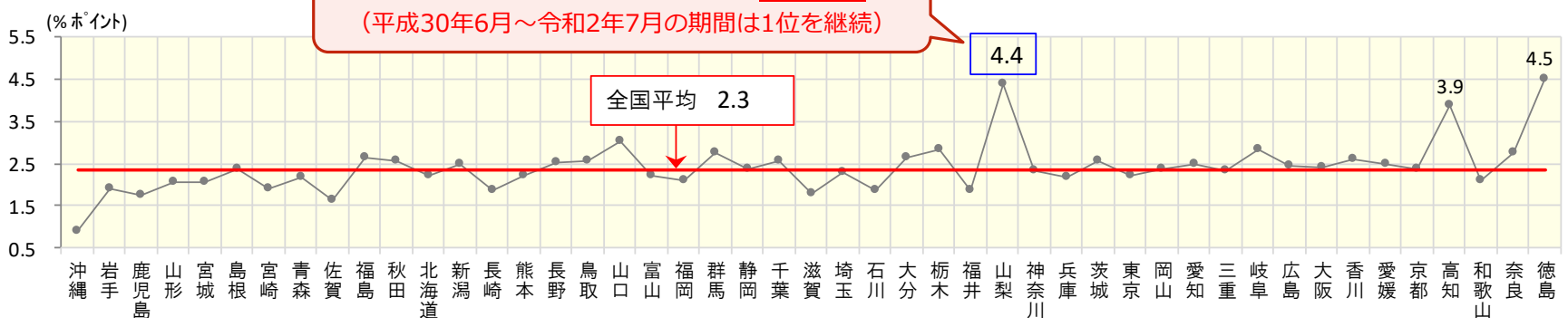
- ・ジェネリック医薬品使用割合（数量ベース）」は、上記区分における $3 \div (2 + 3)$ で算出している。
- ・「数量」は、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えたものをいう。
- ・都道府県別の集計は、加入者が適用されている事業所所在地の都道府県ごとに集計している。
- ・薬効分類は、「日本標準商品分類」の「中分類87－医薬品及び関連製品」に準拠して設定している。
- ・一般名処方とは、処方せんに記載する医薬品名を商品名ではなく、一般名（くすりの主成分名称）とするもの。
例 商品名：マイスリー錠5mg 一般名：ゾルピデム酒石酸塩錠5mg

●都道府県支部別ジェネリック医薬品使用割合 令和2年9月 数量ベース

令和2年9月の山梨支部加入者におけるジェネリック医薬品使用割合は **78.7%**、**全国30位** であり、前年同月からの伸びは **4.4%ポイント** となっている。



・対前年同月差

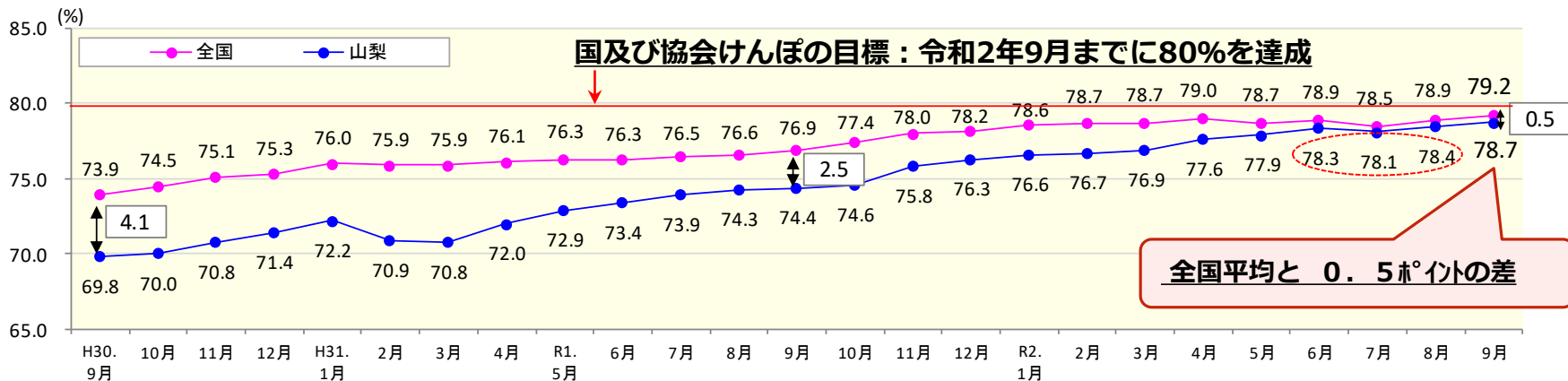


●ジェネリック医薬品使用割合推移 数量ベース

山梨支部の割合は全国の伸びを上回って推移しており、令和2年9月の78.7%について、全国との差は平成30年9月の4.1ポイント差から 0.5ポイント差に縮小となったが、目標の同月までに80%達成には至らなかった。

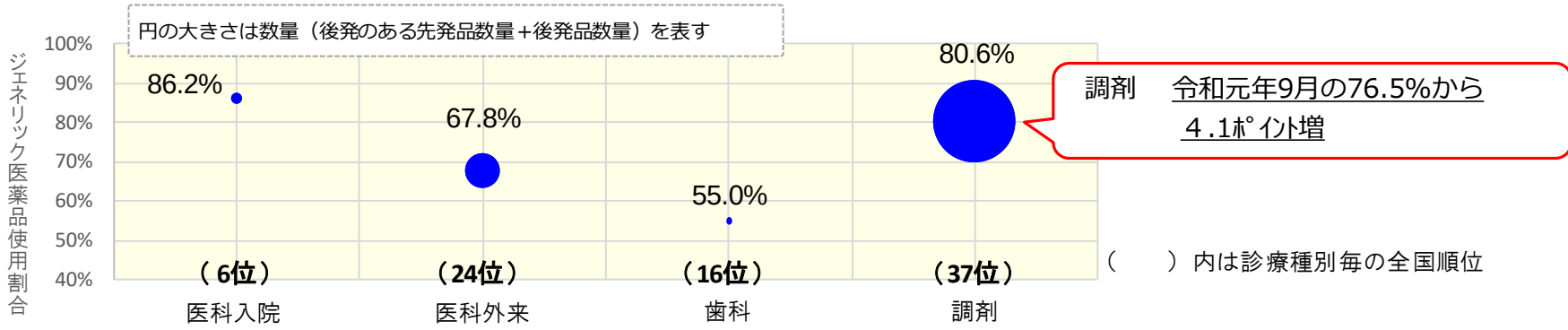
令和2年6月に新規収載されたジェネリック医薬品の影響で、6月以降の伸びが鈍化している。これは、割合算出において、分母に含まれる「後発品あり先発医薬品」の数量増となったためである。

現状、10月以降の目標は国からは示されていないが、協会けんぽは全支部で80%以上を達成するよう、今後も本医薬品使用促進に取り組む。

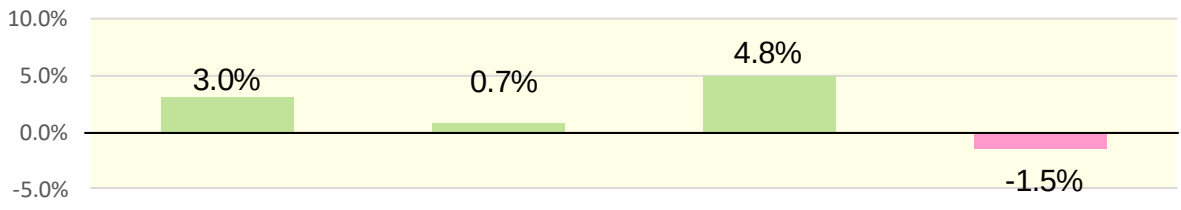


●山梨支部ジェネリック医薬品使用割合 診療種別 令和2年9月 数量ベース

使用割合は入院、外来における院内処方、保険薬局における調剤のトータルから算出するが、数量では保険薬局の調剤分の規模が大きい。
山梨支部では、この調剤の使用割合が全国37位と低く、全体へ影響している。

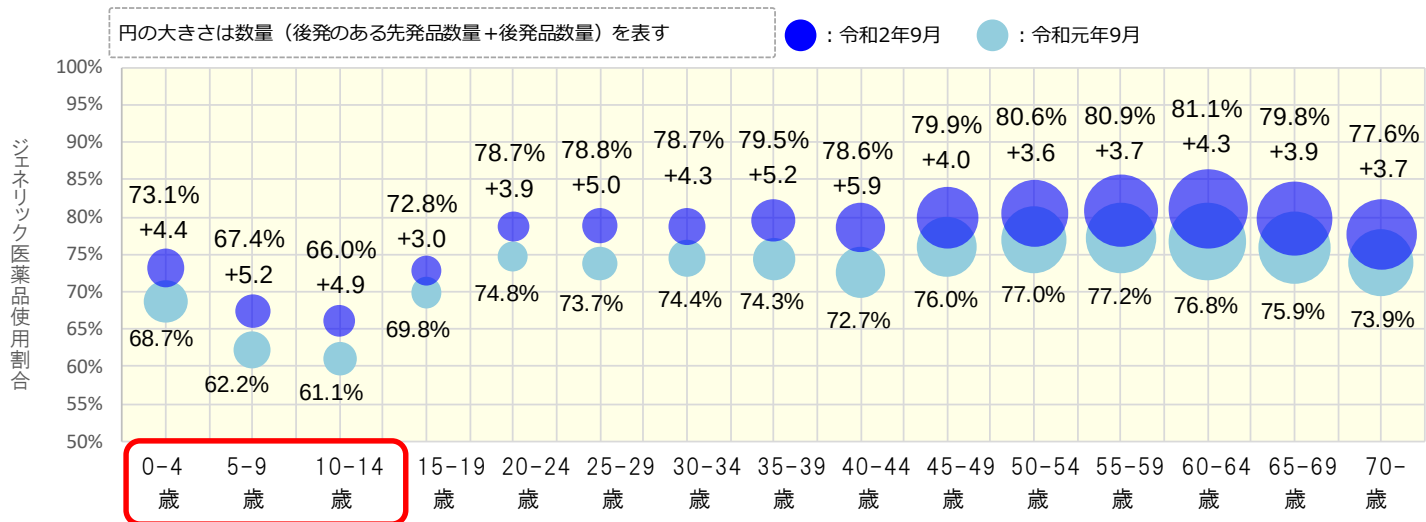


・全国平均との差

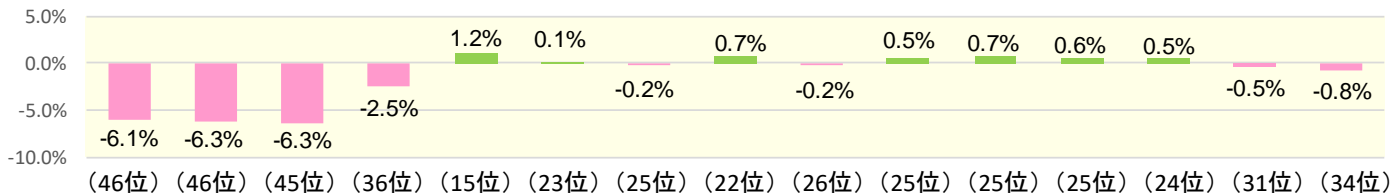


●山梨支部ジェネリック医薬品使用割合 年齢階級別 令和2年9月 数量ベース

0歳～4歳、5歳～9歳、10歳～14歳は前年同月から+4.4%、+5.2%、+4.9%と伸びてはいるが、全国平均との差は▲6%程度と大きい。また、5～14歳の使用割合は60%台と低い。



・全国平均との差

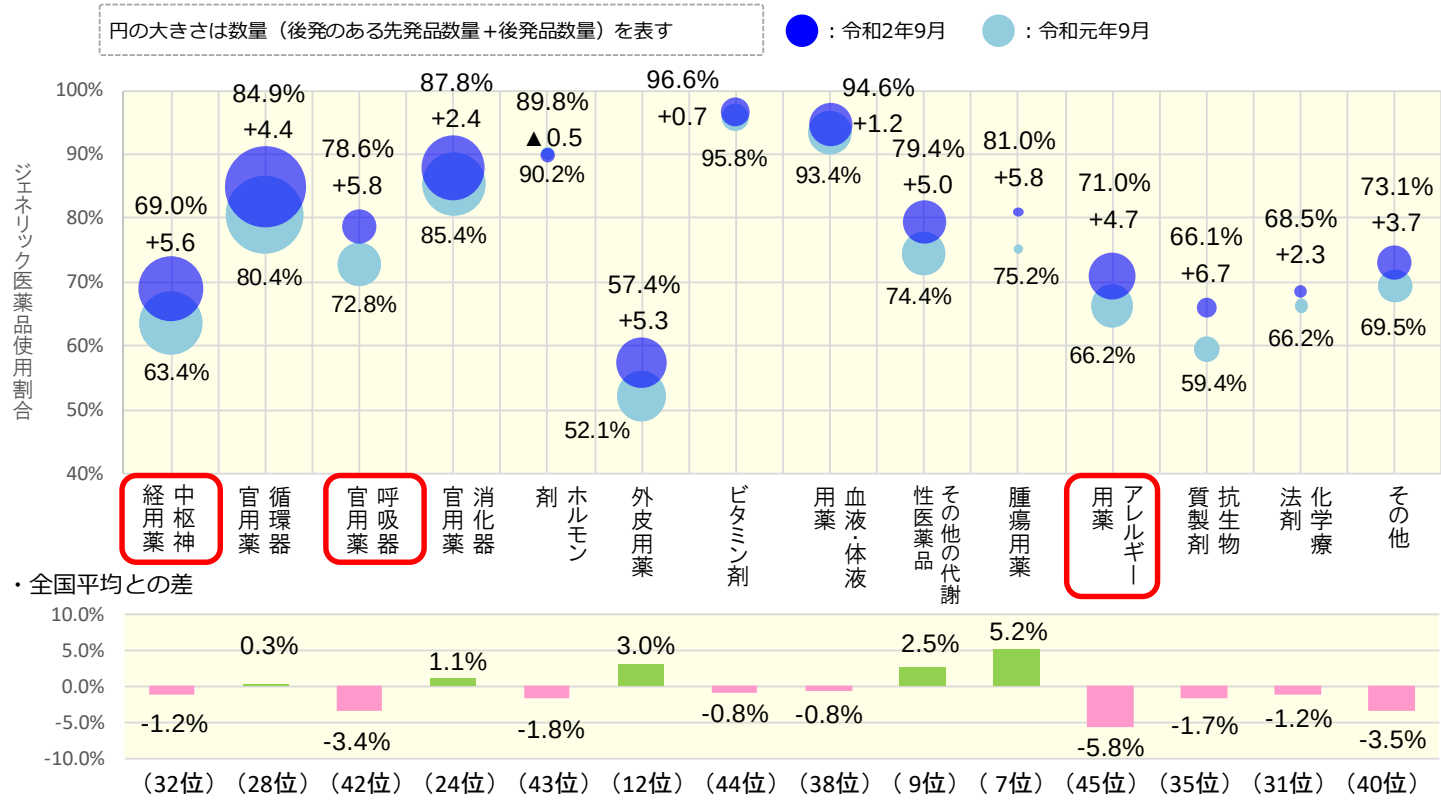


() 内は令和2年9月 全国順位

●山梨支部ジェネリック医薬品使用割合 主な薬効分類別 令和2年9月 数量ベース

14歳以下の数量が多い呼吸器用薬、アレルギー用薬は、前年同月から伸びてはいるが、全国平均との差は▲3.4%、▲5.8%と大きい。

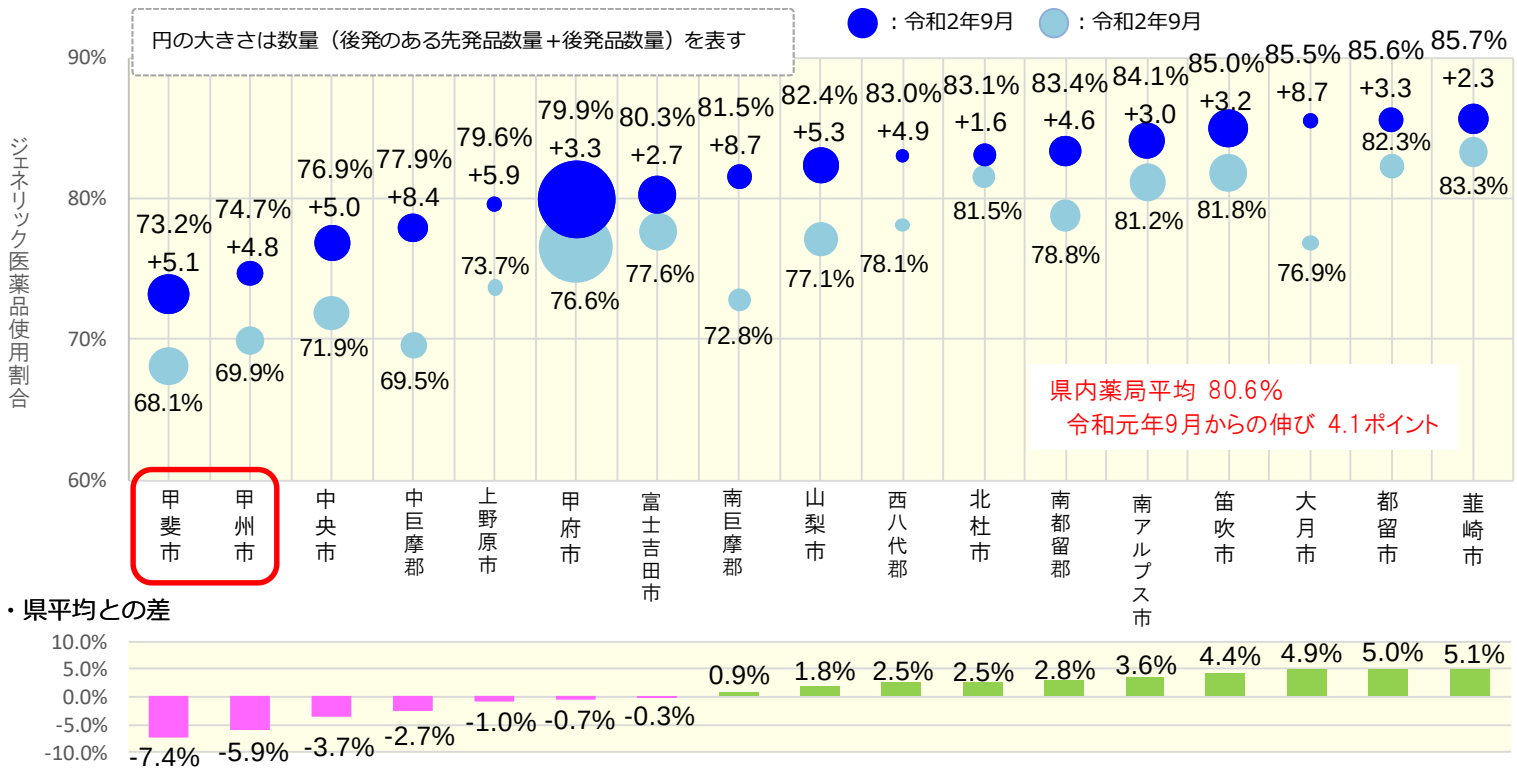
数量が多い中枢神経用薬は、前年同月から+5.6%と伸びているが、60%台と低い。



() 内は令和2年9月 全国順位

●ジェネリック医薬品使用割合 市郡別（薬局所在地）令和2年9月 数量ベース（調剤のみ）

県内でも地域差があり、一番高い韮崎市（85.7%）と一番低い甲斐市（73.2%）では **12.5%の差** となっている。**甲斐市、甲州市** において、前年同月から伸びてはいるが、**割合は県平均との差が7%以上、約6%と大きい。**



●一般名ありレセプト状況 (※) 令和2年4月

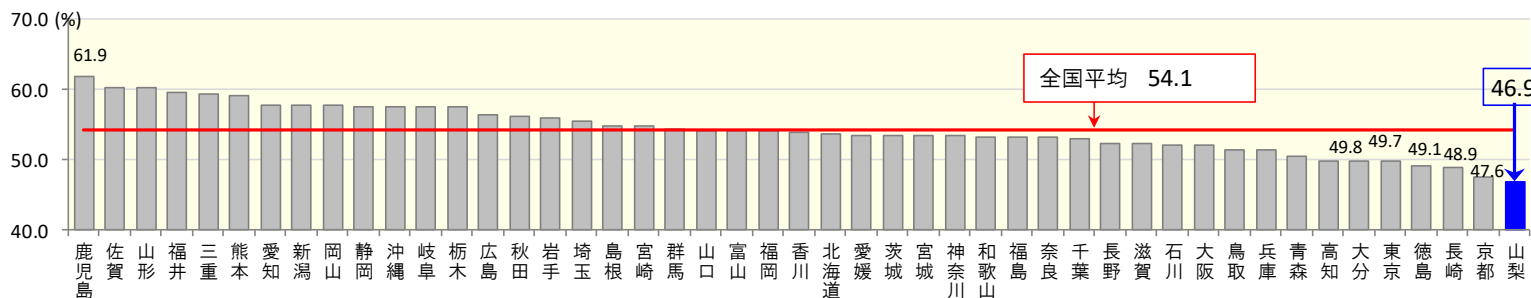
※山梨県内の医療機関、薬局で処方を受けた加入者の一般名処方のある医科レセプト、およびこれに紐づく調剤レセプトに限定して集計

一般名処方ありレセプト件数割合において、山梨は **46.9%、全国47位と最下位**。当割合はジェネリック医薬品使用割合と正の相関があり、拡大が求められる。

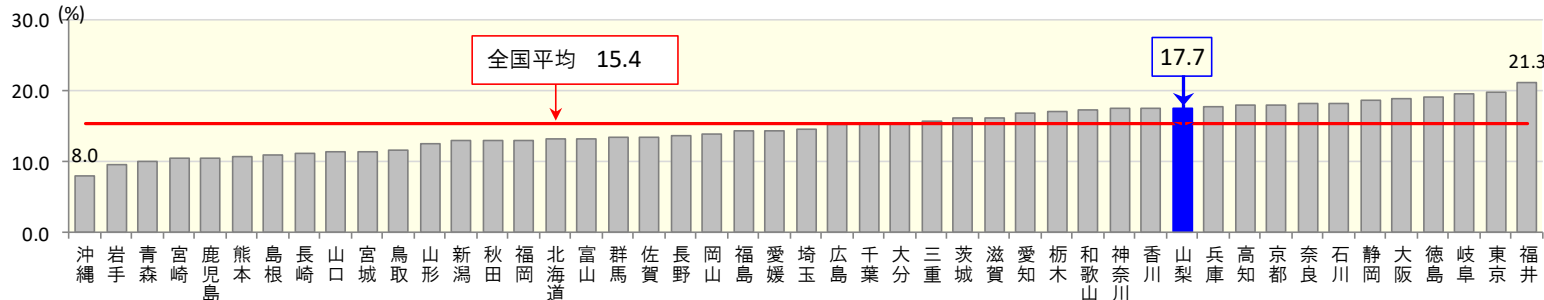
一般名処方でありながら**患者意向によりジェネリック医薬品が調剤されなかった件数割合**においては、山梨は**17.7%、全国12位と高い**。この割合はジェネリック使用割合と負の相関がある。

→ **薬局への働きかけ、加入者への啓発が重要**。

・一般名処方ありレセプト件数割合



・一般名処方ありレセプトのうち、後発品を患者意向で調剤しなかったレセプト件数割合



●令和2年3-9月度協会けんぽ山梨支部加入者、診療種別件数・医療費

協会けんぽ山梨支部加入者の入院外および調剤における件数は、3月度で前年同月から▲12.4%、▲11.3%と減少、5月度では、さらに▲22.1%、▲18.7%と減少が拡大、7月度はマイナス幅が縮小、9月度は更に縮小し▲7%程度となっている。

これは、花粉飛散量が例年より少なかったことによる花粉症患者の減と、新型コロナウイルスに伴う受診抑制が一定程度影響を及ぼしているものと推察される。

また、3月度では入院外、調剤に比べ前年同月からのマイナスが小さかった入院、歯科も4、5月度では大きく減となったが、6月度以降はマイナス幅が縮小して推移している。

・令和2年3～8月 山梨支部診療種別件数、医療費

	件数	前年同月から	<全国>	医療費 (億円)	前年同月から	<全国>	
		の伸び率	前年同月から の伸び率		の伸び率	前年同月から の伸び率	
3月	入院	2,060	-7.9%	-3.2%	10.4	-6.9%	2.8%
	入院外	133,228	-12.4%	-10.8%	15.1	-6.1%	-5.0%
	歯科	36,754	-2.7%	-2.0%	4.4	-1.2%	0.8%
	調剤	89,646	-11.3%	-10.1%	8.9	-4.0%	-1.2%
5月	入院	1,624	-21.7%	-17.2%	8.8	-11.5%	-11.1%
	入院外	104,258	-22.1%	-22.5%	12.2	-18.0%	-17.1%
	歯科	27,589	-19.2%	-19.2%	3.5	-7.9%	-8.8%
	調剤	70,268	-18.7%	-19.8%	7.0	-9.0%	-8.2%

	件数	前年同月から	<全国>	医療費 (億円)	前年同月から	<全国>	
		の伸び率	前年同月から の伸び率		の伸び率	前年同月から の伸び率	
7月	入院	2,104	-5.0%	-8.8%	10.5	-5.6%	-6.0%
	入院外	123,770	-10.2%	-10.1%	14.8	-5.5%	-5.6%
	歯科	33,750	-9.1%	-8.7%	4.3	-1.7%	-1.4%
	調剤	80,162	-8.9%	-9.2%	7.5	-7.7%	-2.8%
9月	入院	2,122	-0.7%	-0.3%	9.9	-6.5%	-0.3%
	入院外	122,267	-7.1%	-7.3%	14.7	-1.1%	-0.9%
	歯科	34,706	2.0%	0.2%	4.3	10.6%	8.4%
	調剤	78,942	-7.1%	-7.2%	7.5	-1.0%	-0.9%

※件数、医療費は社会保険診療報酬支払基金分に係るもの

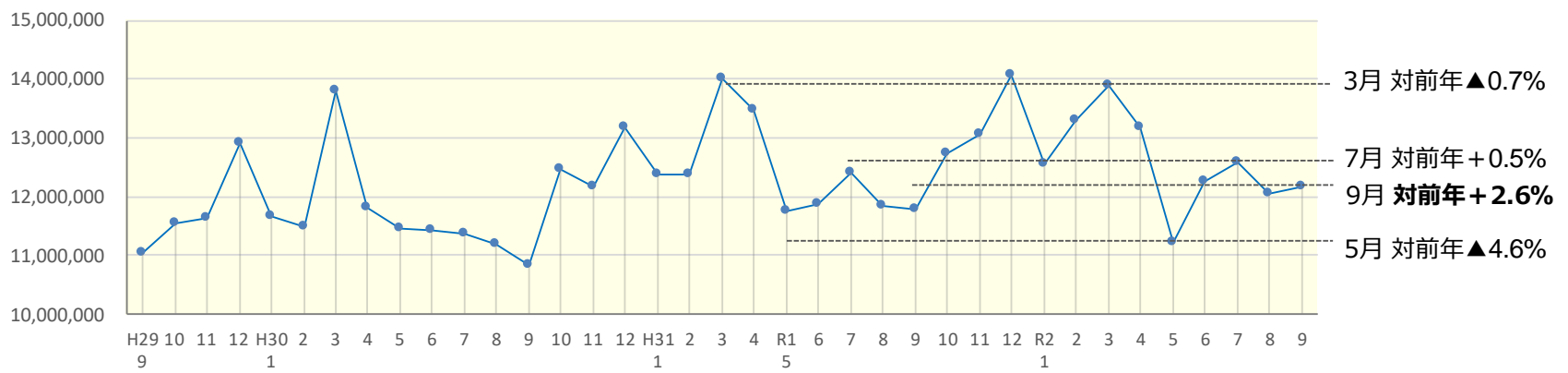
●調剤における医薬品数量の推移

調剤における医薬品数量は例年3月がピークとなる。これは主に花粉飛散量とリンクし、花粉症患者が増え、アレルギー用薬の数量が増大するためである。

令和2年3月度の前年同月からの伸びは、▲0.7%とほぼ前年並みの数量であるが、4月度が▲2.2%、5月度▲4.6%とマイナス幅が拡大となった。6月度以降はプラスに転じ、7月度は+0.5%、9月度は+2.6%となっている。

医薬品数量減は、14歳未満で顕著なことから、新型コロナウイルスに伴う受診抑制がこの年齢層に多くみられることや、花粉症患者減によるアレルギー用薬減が推察される。一方、50歳以上の年齢層は、5月度を除いて前年同月から数量は伸びており、循環器系や糖尿病の医薬品が増となっている。
(詳細は9,10ページ)

・調剤における医薬品全体数量の推移



●調剤における医薬品数量、年齢階級別

0～14歳の前年同月からの伸びで、3月度は5～9歳、10～14歳で大きく減少、5月度では、0～4歳のマイナス幅が拡大している。7、9月度で0～4歳のマイナス幅は縮小しているが、▲20%以上と大きい。5～9歳は7月度で▲5.6%となったが、9月度で▲10.2%とマイナス幅が大きくなっている。

一方、医薬品数量の大きい50歳代以降は3月度は前年からプラスの伸びとなったが、5月度は50～54歳、70～74歳を除いてマイナスとなった。7、9月度は50歳台以降の全ての階級でプラスとなっている。

・令和2年3～9月度医薬品数量（調剤分）

	3月			5月			7月			9月		
	数量	前年同月からの伸び率	<全国>前年同月からの伸び率	数量	前年同月からの伸び率	<全国>前年同月からの伸び率	数量	前年同月からの伸び率	<全国>前年同月からの伸び率	数量	前年同月からの伸び率	<全国>前年同月からの伸び率
合計	13,898,277	-0.7%	1.6%	11,212,306	-4.6%	-6.3%	12,582,760	1.4%	0.5%	12,177,549	3.4%	2.6%
0-4歳	647,184	-8.9%	-11.6%	416,238	-33.6%	-35.4%	444,063	-22.9%	-20.8%	406,935	-24.9%	-23.3%
5-9歳	563,024	-15.2%	-13.1%	367,527	-10.3%	-15.0%	353,453	-5.6%	-6.7%	353,405	-10.2%	-13.1%
10-14歳	441,041	-24.1%	-18.9%	302,770	-14.7%	-13.9%	311,572	-7.0%	-4.3%	309,407	0.1%	-1.6%
15-19歳	493,746	-6.7%	-1.4%	319,236	15.3%	-3.8%	312,105	8.5%	1.5%	321,842	5.2%	8.7%
20-24歳	359,484	-5.4%	-2.0%	277,862	-10.7%	-10.5%	309,977	0.3%	-0.5%	300,305	6.7%	4.3%
25-29歳	430,388	-10.5%	-0.3%	321,752	-8.2%	-12.0%	369,249	-6.2%	-3.1%	382,638	9.1%	0.4%
30-34歳	520,430	-4.5%	-2.7%	386,619	-10.2%	-13.7%	449,478	-0.7%	-4.3%	435,597	3.0%	-1.6%
35-39歳	684,697	-7.2%	-1.7%	539,176	-6.3%	-11.0%	597,950	-2.3%	-3.0%	603,002	5.1%	-0.3%
40-44歳	910,149	-4.1%	-1.8%	747,117	-5.4%	-9.1%	839,870	0.2%	-2.4%	781,598	-2.0%	-0.1%
45-49歳	1,221,482	-1.3%	5.1%	1,029,627	-2.0%	-1.5%	1,163,056	4.0%	3.0%	1,129,455	6.9%	5.1%
50-54歳	1,454,306	7.2%	5.6%	1,242,151	2.1%	-1.8%	1,379,340	5.6%	2.9%	1,308,854	1.1%	5.1%
55-59歳	1,587,382	4.9%	6.2%	1,348,784	-1.3%	-1.5%	1,547,137	3.6%	3.7%	1,477,420	4.3%	6.3%
60-64歳	1,816,809	2.6%	5.6%	1,524,459	-4.4%	-2.9%	1,714,892	1.5%	2.3%	1,680,971	6.7%	4.7%
65-69歳	1,507,223	3.5%	3.6%	1,279,337	-4.3%	-4.9%	1,459,007	1.2%	1.3%	1,427,394	5.8%	3.4%
70-74歳	1,260,934	15.6%	16.3%	1,109,650	4.4%	6.0%	1,331,612	12.6%	11.9%	1,258,725	13.8%	13.4%

●調剤における医薬品数量、薬効分類別

前年同月からの伸びで、3月度は小児で数量の大きい「呼吸器官用薬」「アレルギー用薬」「抗生物質製剤」が減少し、5月度で「呼吸器官用薬」「抗生物質製剤」はマイナス幅が拡大、「アレルギー用薬」はマイナス幅が縮小。7月度、「呼吸器官用薬」「抗生物質製剤」のマイナス幅は縮小はしたが、9月度ではマイナス幅が拡大している。

一方、加齢とともに数量の増える「循環器官用薬」、糖尿病の薬を含む「その他の代謝性医薬品」は3月度に前年同月からの伸び率は増加、5月度はプラス幅が小さくなったが、7、9月度はプラスで推移している。

・令和2年3～9月度医薬品数量（調剤分）

	3月			5月			7月			9月		
	数量	前年同月からの伸び率	<全国>前年同月からの伸び率	数量	前年同月からの伸び率	<全国>前年同月からの伸び率	数量	前年同月からの伸び率	<全国>前年同月からの伸び率	数量	前年同月からの伸び率	<全国>前年同月からの伸び率
合計	13,898,277	-0.7%	1.6%	11,212,306	-4.6%	-6.3%	12,582,760	1.4%	0.5%	12,177,549	3.4%	2.6%
中枢神経用薬	1,659,984	5.1%	5.2%	1,431,192	-7.6%	-4.5%	1,692,999	1.5%	0.9%	1,625,206	4.5%	3.5%
循環器官用薬	2,115,951	8.6%	10.3%	1,862,530	1.8%	2.3%	2,131,445	5.1%	6.4%	2,073,722	8.6%	8.5%
呼吸器官用薬	620,004	-16.6%	-19.0%	301,621	-57.8%	-56.5%	384,088	-36.9%	-38.0%	364,876	-44.2%	-40.2%
消化器官用薬	1,527,441	-0.3%	4.5%	1,324,596	-7.0%	-5.5%	1,578,013	1.4%	2.5%	1,533,556	5.9%	5.4%
ホルモン剤（抗ホルモン剤を含む）	287,125	5.9%	3.8%	231,393	0.7%	-1.9%	273,459	9.0%	4.4%	267,607	5.6%	6.4%
外用薬	788,060	3.3%	7.2%	757,351	4.0%	0.1%	823,467	3.2%	3.7%	787,072	8.4%	5.8%
ビタミン剤	411,712	10.1%	8.8%	362,243	9.1%	1.0%	395,009	5.9%	3.1%	381,509	8.3%	5.6%
血液・体液用薬	1,280,714	5.1%	7.6%	1,039,244	2.7%	-2.0%	976,405	-2.3%	0.7%	909,075	4.2%	3.7%
その他の代謝性医薬品	1,291,669	10.1%	8.9%	1,143,657	1.6%	1.4%	1,320,631	4.4%	5.4%	1,224,081	3.9%	7.4%
腫瘍用薬	35,751	11.1%	15.9%	31,044	-4.2%	1.1%	36,252	13.2%	8.5%	34,465	15.1%	11.8%
アレルギー用薬	1,385,712	-23.0%	-16.6%	720,217	-2.0%	-8.0%	643,655	6.6%	1.8%	711,776	4.3%	0.6%
抗生物質製剤	169,565	-17.0%	-16.7%	110,210	-43.7%	-43.7%	139,037	-24.7%	-25.3%	130,099	-28.9%	-26.1%
化学療法剤	71,498	8.2%	-4.2%	51,633	-21.4%	-25.0%	64,020	-5.4%	-12.7%	61,487	-5.5%	-11.9%
その他	2,253,089	-1.9%	2.8%	1,845,375	3.7%	-0.9%	2,124,281	7.6%	4.9%	2,073,020	11.1%	8.2%

● 医療機関、保険薬局への働きかけ

医療機関毎、保険薬局毎の処方状況をまとめた「お知らせ」を訪問、郵送にて提供。
訪問は各機関の使用状況等から、対象を絞った取組みを実施している。

1. 医療機関への働きかけ(医療機関毎の処方状況をまとめた「お知らせ」を提供)

① 山梨県医師会との情報交換等の実施。12月には包括的連携に関して協定を締結。

② 医療機関への情報提供

H30年度 51病院を訪問、335診療所は郵送(6~9月)。耳鼻咽喉科29、小児科27診療所へ郵送、うち4診療所を訪問(2~3月)。

R1年度 10病院を訪問、49病院は郵送。(5~6月)。425診療所へ郵送、うち13診療所を訪問(6~7月)。

60病院、469診療所へ郵送。(12月)

R2年度 60病院、465診療所へ郵送(4月)、うち7病院、3診療所を訪問(6~8月)。

60病院、462診療所へ郵送(10月)、うち1病院を訪問(12月)。

2. 保険薬局への働きかけ

① 山梨県薬剤師会との情報交換等の実施。

② 保険薬局への情報提供

H30年度 401薬局へ郵送(4月)。 22薬局を訪問、363薬局へ郵送(11月)。

R1年度 40薬局を訪問、369薬局へ郵送(7~9月)。405薬局へ郵送(12月)。

R2年度 410薬局へ郵送(4月)、うち15薬局を訪問(6~8月)。 410薬局へ郵送(10月)、うち1薬局を訪問(12月)。

③ お薬手帳カバー配布 薬剤師会会員332薬局へ、配布対象を協会けんぽ加入者とし7,564冊を配布(H30.5)

同様に166薬局、6,671冊を配布(R1.5) 127薬局、5,184冊を配布(R2.6)

④ 県薬剤師会主催のシンポジウムへの共催、協会けんぽの医薬品使用状況等を説明、意見発信を実施(R2.2)

● 医療機関、保険薬局への働きかけ

一般名処方拡大へ向けた医療機関等への勧奨事業

協会けんぽ加入者が使用した医薬品の数量等をまとめた「医薬品実績リスト」を活用し、先発医薬品名から一般名や対応するジェネリック医薬品の使用状況が分かるツールを作成し、県内の医療機関等へ配布するもの。

- ・ツールを収納したCD-Rを病院、診療所600機関、保険薬局456機関へ送付(R3.2月)
- ・活用についてアンケートを実施し、事業の評価を行う。

<表示例>

検索する先発医薬品の商品名を入力してください。

商品名

検索結果

先発医薬品名	メーカー名	薬価基準収載 医薬品コード	薬価(※1)	数量(※2)
アレロックOD錠5 5mg	協和キリン	4490025F4022	41.2	30,000

上記先発品の一般名処方の標準的な記載

【般】オロパタジン塩酸塩口腔内崩壊錠5mg

上記先発品に対応するジェネリック医薬品の使用状況 数量の多い上位5品目 (6品目以降はその他に集約)

ジェネリック医薬品名	メーカー名	薬価基準収載 医薬品コード	薬価(※1)	数量(※2)
オロパタジン塩酸塩OD錠5mg「○○」	○○	4490025F----	13.8	18,000
オロパタジン塩酸塩OD錠5mg「●●」	●●	4490025F----	13.8	6,000
オロパタジン塩酸塩OD錠5mg「□□」	□□	4490025F----	13.8	5,000
オロパタジン塩酸塩OD錠5mg「■■」	■■	4490025F----	13.8	3,000
オロパタジン塩酸塩OD錠5mg「△△」	△△	4490025F----	13.8	2,500
その他	---	---	~21.4	12,000

※1: 薬価は令和2年6月時点のものを使用
 ※2: 数量は山梨県内の医療機関及び保険薬局における、令和2年4月度の協会けんぽ加入者の医科レセプト・DPCLレセプト・調剤レセプトから集計

●自治体との連携

15歳未満の使用割合増のため、「**オリジナル希望カード（年長児向け）**」
「小中学校保護者向けチラシ」の配布を実施。広報面においても連携。

① 山梨県の担当課である衛生薬務課との情報交換、県事業への参画。
 保健所毎の医師・薬剤師意見交換会での説明・意見発信
 (H30年度:4保健所、R1年度:1保健所、R2年度は新型コロナの影響で予定なし)

② 協定締結した自治体庁舎への懸垂幕、のぼり旗の設置。

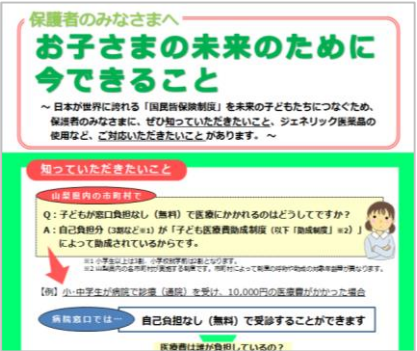
③ オリジナル希望カードの配布
 園児を対象として、オリジナルの希望カードを作成。受診時に利用いただく。
 富士吉田市、笛吹市、中央市、山梨市、昭和町、富士川町において年長児
 約1,500名へ配布(H28-R1)。



<希望カード>

R2年度実績:富士吉田市(380名)、中央市(121名)、山梨市(220名)、
 甲州市(224名)、昭和町(141名)、富士川町(71名)

④ 小中学校保護者向け啓発チラシの配布
 子ども医療費助成制度に対する記事に加えて、ジェネリック使用促進を掲載。
 甲府市、山梨市、笛吹市、富士吉田市、昭和町、富士川町において
 のべ32,600名へ配布(H29-R1)。



R2年度は富士吉田市、山梨市、昭和町、富士川町で実施 計8,800名へ配布。

<小中学校保護者向けチラシ例>

● 広報

事業所、加入者への広報物の配布、新聞、ラジオ、路線バス等、広範囲に渡る広報活動を実施。

① 広報物の配布(チラシ、ポスター、Q&A小冊子、希望シール)

- ・事業所、加入者、医療機関、薬局のほか、健康づくりイベント、各種会議等での配布。
- ・被保険者100名以上の事業所へは、当該事業所の加入者におけるジェネリック医薬品の使用状況をまとめたリーフレットやポスターを送付 R1.7：201事業所 R2.1：212事業所 R2.6：220事業所 R2.11：226事業所

② 新聞広告

- ・保護者向け
掲載紙：山梨日日新聞 仕様：半2段、モノクロ、月1回+αの掲載 期間：R1.10月～R2.3月 R2.7月～R2.12月
掲載紙：山梨日日新聞、山梨新報 掲載日：R3.1.17(山日、全3段) R3.1.15(新報、全5段)
- ・アレルギー用薬(花粉症)対策
掲載紙：山梨日日新聞、山梨新報 仕様：全5段 モノクロ 掲載日：R2.1.19(山日) R2.1.17(新報)

③ ラジオCM

- ・放送 YBS山梨放送 放送時間 週1回(月曜日)、番組コーナー提供(9:50頃)、20秒CM
- ・期間 R1.10月～R2.3月

④ 関係団体広報誌への広告

- ・富士吉田商工会議所、山梨県中小企業団体中央会、山梨県商工会連合会、山梨社会保険協会の会報誌にチラシの折り込み(R1.8～9月、R2.7～8月)
- ・山梨県広報誌「ふれあい」への広告掲載(R2.1)

⑤ 公共機関を利用した広告

路線バスへの広告(H31.4～R2.3)



<路線バス広告>

●ジェネリック医薬品軽減額通知

ジェネリック医薬品に変更した場合の薬代の軽減見込み額をお知らせするもの。
 年度内に2回、8月と2月に送付を実施。“緊急対策”の取組みとして、令和2年2月の通知以降、対象者をこれまでの**18歳以上から15歳以上の加入者に拡大**。
 また、山梨支部では支部独自として、「アレルギー性鼻炎」の先発医薬品を処方された加入者に、令和2年1月に通知を実施。

●送付人数、結果

H30年度(8月、2月 2回送付の累計)

山梨支部 送付：53,701人 切替：14,196人(切替率 26.4%)

全国 送付：6,697,348人 切替：1,857,995人(切替率 27.7%)

R1年度(8月、2月 2回送付の累計)

山梨支部 送付：50,257人 切替：14,030人(切替率 27.9%)

全国 送付：6,566,207人 切替：1,818,725人(切替率 27.7%)

R2年度(8月、2月 2回送付の累計)

山梨支部 8月送付：26,009人 切替：R3.3月判明予定

2月送付：21,197人 切替：R3.8月判明予定

※支部独自の軽減額通知

対象者：H31年2月～4月に「アレルギー性鼻炎」の先発医薬品を処方された加入者(18歳以上)、5,852人

発送月：R2年1月



令和3年度の取組み 【目標 山梨支部ジェネリック医薬品使用割合 80.0%以上】

取組事項

①一般名処方拡大へ向けた医療機関等への勧奨事業

県がとりまとめた「汎用後発医薬品リスト」(先発医薬品名に対する一般名や病院で採用しているジェネリック医薬品名が記載されたもの)を活用したツールを作成し、県内の医療機関等へ配布するもの。

②医療機関への働きかけ

- ・医療機関毎にジェネリック使用状況をまとめた「お知らせ」の提供を、訪問と郵送により実施。年2回の実施予定。
- ・山梨県医師会等への情報提供、依頼。

③薬局への働きかけ

- ・薬局毎にジェネリック使用状況をまとめた「お知らせ」の提供を、訪問と郵送により実施。年2回の実施予定。
- ・お薬手帳カバーの配布(カバーにジェネリック医薬品Q&A小冊子を挟みこむ)、R3.4~5月予定。

④自治体との連携

- ・山梨県の担当課である衛生薬務課との情報交換、県の事業への参画。
- ・協定締結した市町を中心とした連携。
広報：懸垂幕、のぼり旗の設置 年長児へのオリジナル希望カードの作成、配布
窓口無料に関する小中学校の保護者向けチラシの作成、配布

⑤その他

- ・事業主あてに当該事業所の加入者におけるジェネリック医薬品使用割合をまとめた資料等の送付。(6月、11月予定)

新・15歳未満の加入者に対するジェネリック医薬品軽減額通知。(8月実施予定)

- ・山梨県後発医薬品安心使用促進協議会での意見発信。
- ・広報 **新** YouTubeを利用した動画配信。

バス広告、新聞広告の継続、事業所向けチラシや関係団体機関誌への記事掲載 等